

リベラルアーツ教育の 日米比較

2015年11月20日

於・今出川校地良心館107番教室

変化と多様化、グローバル化の進む現代、リベラルアーツ教育の重要性が見直されつつあります。同志社大学でも2016年度からリベラルアーツ・プログラムを導入する予定です。そこで日米の代表的なリベラルアーツ大学の取り組みを共有し、本学、ひいては日本の大規模総合大学におけるリベラルアーツ教育の今後を展望しました。

開会挨拶

学校法人同志社総長 **大谷 実**

1874年に約10年間のアメリカ留学から帰国いたしました新島襄は、1875年11月29日、同志社英学校を開設しました。以来140年間、キリスト教主義、自由主義、そして国際主義に基づく良心教育を教学の理念として、困難を克服してまいりました。

学校法人同志社は、現在、大学から幼稚園、インターナショナルスクールまで、14の学校併せて4万3000人が学ぶ一大総合学園に発展しました。そして2015年、晴れて創立140周年を迎えま



す。本日はこれを記念いたしまして、今後同志社大学が特に力を入れて取り組む予定でございますリベラルアーツ教育につきまして、シンポジウムを実施いたします。

創立者新島襄がアメリカで学んだアモスト大学、また、同志社総長であった湯浅八郎が創設に携わり、初代の学長となりました国際基督教大学、この2つの大学から学長先生をお招きしてシンポジウム及び基調講演を頂戴する予定でございました。しかし大変残念でございますが、アモスト大学のマーティン学長が緊急の所用のために本日はお越しいただけないことになり、アモスト大学のモース教授にご講演をお願いすることになりました。モース先生、国際基督教大学学長の日比谷先生、どうぞよろしくお願いたします。

基調講演

アメリカのリベラルアーツ教育

アモスト大学教授 **サムエル・モース氏**

※講演を予定していたアモスト大学のビデオ・マーティン学長が公務の事情で欠席のため、学長のスピーチをサムエル・モース教授が代読されました。

アメリカのリベラルアーツ教育

リベラルアーツ教育は、アメリカの高等教育において中核的な強みでした。民主主義の発展を支え、さまざまな変化や脅威に対応できる人材を育てるとともに、アメリカ合衆国に対して経済的、政治的、社会の幸福のために貢献してきました。リベラルアーツ大学だけではなく、大



な研究大学においても、アメリカの高等教育の中心にあるのは、まず卒業生は広い知識を有している必要があるという考

え方です。そして卒業生たちは多様な分野をつなぐことができ、民主的なプロセスや市民生活に参加できるだけの情報を持つている必要がある。多様な人々と一緒に仕事ができる能力が必要とされるのです。

アメリカのリベラルアーツ教育では、教養学、人文科学、社会科学、数学、物理、生物学などを学びます。今では経営学や工学の専攻科目を提供する大学もあります。リベラルアーツ教育は特定の仕事やキャリアのための教育ではありません。批判的思考、深いコミュニケーション



ン力、創造的表現、そして友情を築く能力を養うための場であると考えられています。このような資質はキャリアにおける成功にも必須であり、積極的な政治参加にも必要になります。意味のある人生を他者と築くという、人間の存在に関わる基本的な営みにも関係しています。

教養教育の目的についてマーティン学長は、ウィスコンシン・マディソン大学で歴史学を教えるウィリアム・クロノン教授の文献を紹介しています。“Only Connect The Goals of a Liberal Education”という本です。ここでクロノン教授は、教養ある人たちの持つ10の素質を挙げ、これらを学生や子どもたちに教育することが重要であると述べています。10の素質を紹介します。

1. 聞く（聴く）人である。他者や周りの世界への注意の向け方を理解している。他者に共感できる。

2. 読み、理解する人である。例えば、幅広いジャンルの本や新聞を読み、大自然の中をさまようことができ、そこで遭遇する生物を見分けられる。

3. 誰とも話が出来る。相手の職業、地位、職業の有無も関係ない。

4. 明瞭で説得力のある、また心を動かす文章を書く。

5. さまざまな謎や問題を解決できる謎を解く能力にはさまざまなスキルが必要である。

6. 厳格さのために厳格さを求めるのではなく、真理を追究するための厳格さを尊重する。

7. 謙遜、寛容と自己批判を展開する。自分たちだけの夢や悪夢を理解するだけではなく、他者の夢や悪夢の力を理解する。

8. 世界でどのような物事を成し遂げればいいのかを理解している。

9. 周りの人たちに力を与える。周りの人たちを育てる。

10. E・M・フォースターの小説『ハワーズ・エンド』に出てくるようなことを実践している。

つまり教養教育とは、つながるための力と英知、寛大さ、自由を獲得することなのです。

現代のリベラルアーツ教育のあり方

アメリカの高等教育においてリベラルアーツが果たしてきた価値は、2008年以降、さまざまな疑問にさらされています。アメリカでは過去数十年にわたって脱工業化が進み、グローバル化の影響もあつて仕事の性質や就業機会が変化しています。オンライン教育など、もっと効率的な教育提供システムの存在によって、大学の終焉を主張する人もいます。本格的なオンラインコースでは学位も提供されるようになっていきます。世界を見渡せば非常に多くの需要があるため、これらはもちろんプラス面の可能性もあるでしょう。オンラインツールは教育的な実験の推進にもつながりますし、伝統的な大学の教室や教員たちに変革をもたらすものでもあります。

一方で、このような大規模な高等教育の断裂というものは、少し誇張されているくらいがあります。2年前、ニューヨークタイムズがオンラインラーニングの将来に関する協議を行いました。オンラ

する方法を学生が学ぶことです。それはまた、人生のスキルにも生かすことができるのです。

変化を迫られるアメリカの高等教育

高等教育に変化を求める声もあります。背景には高等教育機関が抱えるさまざまな重要課題が見え隠れしています。今、仕事をする上で、大学教育は無くてもならないものになってきました。一方で学費の伸びは、一般世帯の所得の伸びをはるかに上回っています。教育には大変なお金がかかりますが、大学の資金源は非常に限られており、これまで以上に不安定化しています。特に公的機関において予算に占める州の補助金の割合は減る一方で、2008年以降、この減少は顕著です。これによる学費の値上がりに対して特効薬はありません。また、社会全体で経済格差が大きくなり、中産階級や低所得者の問題は、これまで以上に喫緊の課題となってきました。

そこで高等教育の無料化、大学への補

イン教育提供会社コーセラのダフニー・コーラーは、オンライン教育のビジネスモデルはコンテンツ提供と資格の認定であり、オンラインツールは従来の大学よりも、より安価にコンテンツを提供できると言っています。いったん雇用者側がオンライン教育会社の提供する資格を認めるようになれば、高等教育の断裂はさらに加速化し、教室での授業は過去のものになると言っています。

マーティン学長は、世界には両方が必要だと主張しています。効果的なオンライン学習の機会ももちろん必要ですが、全寮制の高等教育も、アメリカのリベラルアーツ教育の中では必要であると。アメリカだけではなく、全世界においてそれが必要とされています。高等教育のビジネスモデルは単にコンテンツの提供だけでなく、もっと高い理念があり、もつと入り組んだものです。特にアーモスト大学が提供するような教育に関しては、教員陣と学生間の対話が必要であり、それは簡単にはオンラインラーニングでは提供できないものです。教育の目標は、知識を創造する方法と、独立した思考を

助金の制限、大学非課税制度の撤廃など、高等教育政策の変革が叫ばれるようになっていきます。厳しい批判の目を向けられて、私たちが現代社会が必要とする教育を行うのが困難になりつつあります。本当なら、リベラルアーツ教育を多くの人たちに広げていきたいところですが。

ただ景気が少しずつ回復する中、企業のトップや評論家たちも、敏捷な創造力を持つ思想家が必要だと考えるようになってきました。文章がしっかりと書けて社会問題を解決でき、他者と協力できる人たちが必要であると。新聞の署名論評などを見ても、変化の速い現代において長い目で見た場合、単に具体的スキルだけを教えていくのでは、学生にとっても結局は見返りが小さくなってしまふのではないかと。それは社会全体にとってもマイナスではないかという考え方が生まれてきています。

アーモスト大学の変革

リベラルアーツ教育が成功すれば、発想の豊かな人たちを生み出します。彼ら

こそが、今ある仕事だけではなく、将来の仕事を生み出す人たちです。とはいえ、リベラルアーツ教育にも変革が必要です。アーモストカレッジの例を見ながらお話ししましょう。

10年以上にわたり、高等教育の門戸を貧しく恵まれない若者たちにも広げるべきだという声がありました。しかし変革の効果を真に出すためには、入学した全学生が大学で成功できる機会を得られなければいけません。そこで2000年代半ば以降、アーモストにおいても積極的な入学政策や寛大な学費援助を行うようになりました。現在アーモストはリベラルアーツカレッジの中でも、学生への援助の豊富さはおそらくトップクラスだと言えます。2000年代後半には、4割以上を非白人学生で占めるようにしようと考えました。現在、学生の47%が非白人です。また、9〜10%の割合で外国からの学生も受け入れています。そして5人に1人、あるいは4人に1人の学生は、連邦政府のペルグラント (Pell Grant) と呼ばれる、低所得者層に対して支給される奨学金を受けています。

このように学生の姿を見ましても、人種的また社会経済学的に非常に多様性に富んでいます。私たちの現在の目標は、全学生がアーモストで成功するために必要なものをしっかりと得られることです。そして学生たちが、この豊かな多様性から多くのことを学んでいけるようにしなければいけません。大学自身も、学生が多様性に富むことによって、より良く変わっていきけるのだとマーティン学長は考えています。

アーモストは学費援助という意味でもトップクラスだと思います。リベラルアーツカレッジの資金源は、生徒の払う学費、大学基金や財団によって得られる利子、寄附金など非常に限られています。アーモストカレッジには多くの寄附金制度があり、学生の6割、外国からの学生の8割が何らかの形で学費援助を受けています。入学した学生にはすべて教育の公平さも担保しようとしています。例えば、研修旅行の資金を払うことができない学生、無償インターンシップができない学生、経済的に困難な学生に対して学費援助を行っています。しかし資金源が

潤沢でない大学では、自分で全学費を払える学生だけが入つてくることになりまふ。リベラルアーツカレッジにしても総合大学にしても、そうした大学は現代、かなりのリスクにさらされていると言えるでしょう。一方でこの寄附金は、金融市場の良し悪しに大きな影響を受けます。学費の値上がりはなかなか収益の伸びにはつながらない。そこで支出を抑え、また教育の機会の平等を提供するために、必要な活動について優先順位をつけて取り入れていく必要があります。

文化を変えていくことも、同様に非常に難しい問題です。社会経済学的な多様性だけでなく、人種や民族の多様性など、学生間の多様性に富む新しいモデルが大学コミュニティにも必要となります。学生たちが違いを乗り越えて大学コミュニティの一員としての意識を持つようになれば、教育においてもプラスでしょう。しかしキャンパス内でそうした多様な違いにどう対処していくかは、社会における多様性への対処と同様に難しい課題です。しかし環境を整えば、「違いの架け橋」を構築するためのスキルを学ぶ

絶好の機会になると思います。アーモストの最も大切に行っている点の一つが、それらの点です。そのような経験や知見ができれば、学生たちは将来社会で大きく生かせることでしょう。

他にも人事制度、予算の策定方法、学生課の活動など、状況の変化、学生の変化に応じて、私たちはさまざまな重要な機能を変えていかなければいけません。そして教員の能力向上に努め、学科による学習や課外活動なども重視して実践的学習を進めていきます。これらの変化を通じて私たちは、リベラルアーツの価値を最大化していきたいと願っています。

リベラルアーツ教育の真の価値

長らくアメリカでは、大学になると自宅を出て寮に入り、思春期から大人の仲間入りをするまでの非常に重要な時期を大学で過ごすのが普通でした。そのような学びの場の必要性は従来以上に高まっています。その貴重な機会を、単なる職業訓練や就職準備のためだけの場にして

しまふのは、まるで私たちの人生のスタイルを否定してしまふようなものです。特定のスキルに長けた学生は特定の仕事を手取り早く見つけてくるかもしれません。しかし長期的に考えると、自分の就いた仕事の根本的な部分や歴史をしっかりと理解していくことによって、仕事に対する分析能力も身に付き、より創造的な考え方を持つことができ、コミュニケーションも進歩する。人生や仕事においては、その方がより大きな成功をもたらしてくれると思います。

リベラルアーツ教育でできるような教育は、簡単につくることはできません。また、油断するとすぐに停滞してしまいます。リベラルアーツ教育がうまく機能するためには、探求の自由、研究の公正さ、厳格な査読、教える熱意、来たる世代に対するコミットメントがどうしても必要です。リベラルアーツ教育に関して、私たちはこれからも取り組みを続け、新たな機会を捉えていきたいと思っています。以上、学長のスピーチを代読させていただきました。



【質疑応答】

質問者 ●アメリカの学生はどのような動機でリベラルアーツを学ぶのでしょうか。日本の場合は、例えば企業がリベラルアーツを学生に求めれば、学生の中でもリベラルアーツに対する価値が高まると思います。しかし企業がリベラルアーツ教育に価値を見出さない場合、学生はもつと実務的な学問に行きがちです。アメリカの状況はどうですか。

モース ●これは私見になりますが、あるエピソードがあります。ニューヨークにある、大変影響力を持つ法律事務所のシニアパートナーの方が強く信じているのは、リベラルアーツの卒業生が法律事務所においても重要だということです。単にロースクールで勉強した方は、もちろん法律の文章を書くのは上手かもしれませんが、より速く、また状況に適応した思考をするためにはリベラルアーツ教育が重要だと言っています。マーティン学長がおっしゃるように、リベラルアーツ教育は、適応力のある思考者を育成できます。つまり、多様な環境において生き残る力のある学生を育てることがで

きる。例えば、地理や言語、数学などを勉強した後には心理学を専攻すると、多様な状況に対応できるということです。アイモストからはロースクールに進む者もいますし、医学部に進む者、修士コースに進む者もいます。どんな道へ進むにしても、将来の職業人生で成功するための準備をさせているわけです。日本の会社の現状は、私は分かりません。しかしリベラルアーツの卒業生を雇用せず、例えば特定の専攻や専門分野だけの勉強をした学生を雇うのは間違っていると思います。そういった人たちは変化する世界に対応できないからです。ご質問、ありがとうございました。